

安全マニュアル 1 (磯採集・干潟採集)

2020年11月1日改訂

東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所 (採集室)

1. 気象・海況等の確認

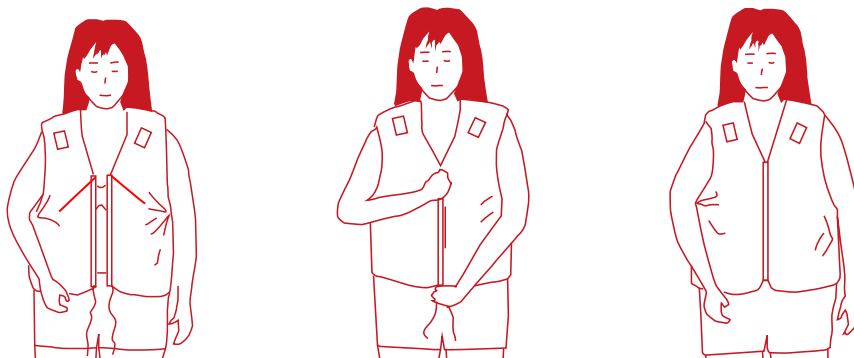
- ・採集を行う前に、当日の最干潮時間・気象・海況を必ずインターネットなどで情報入手した上で、実施の可否について採集室に必ず確認してください。
- ・実施の判断がつきにくい状況の場合、採集室からもアドバイスいたしますが、実習の場合は担当教員が最終判断を行ってください。研究者の場合は、採集室が最終判断を行います。

2. 服装

- ・怪我防止のため長袖長ズボンなど肌の露出を少なくし、軍手を着用してください。
- ・長靴やマリンシューズなどの滑りにくい履物を履いてください (サンダルや裸足は禁止)。
- ・転倒時の頭部保護および熱中症予防(夏季)のため帽子を着用してください。

3. 磯・干潟へ持参するもの

- ・必ず所定の黄色い腕章を腕の見えるところに着用・赤色の採集旗を持参し、採集場所に掲げてください。腕章及び赤色の採集旗は教育棟実習室にあります。腕章は使用後に水拭き等行い、元の場所に戻してください。
- ・心配な方は、ライフジャケットを着用してください (下図参照)。ライフジャケットは教育棟実習室2にあります。



- ① 腕を通して着用し、胸元の紐を結ぶ。左右のバックルでサイズを調節する。
- ② ファスナーを閉じ、すそ締めロープを結ぶ。
- ③ 結んだロープを内側に押し込む。

- ・夏季は熱中症対策（タオル、飲み水、日焼け止め等）、冬季は防寒対策をしてください。
- ・教員や研究者は各自応急処置のできる救急セットを持参し、現場に持って行ってください。

4. 採集中の注意

- ・最干潮前 1～2 時間で採集し、潮が満ち始めたら終了してください。
- ・海を背に採集しないようにしてください。
- ・磯の先端、波が高い所、急に深くなっている所は注意が必要です。
- ・採集場所では、滑ってケガしやすいので慎重に行動し、絶対に走らないでください。
- ・スコップやくわは、周りに人がいないことを確認してから使用してください。
- ・石や岩をひっくり返して観察した後は、必ず元に戻してください。（岩の裏には光が嫌いな動物がついています）
- ・原則として、食べる目的での採集は禁止します。
- ・海にゴミを捨てないでください。

4 - 1. 採集禁止の生物

みうら漁協では、漁業資源として下記の重要な生物の採集は禁止されています。
アサリ・マガキ・イワガキ・アワビ類・トコブシ・サザエ・バテイラなどの貝
マダコ・イイダコ・イワイソメ・イセエビ・シャコ・ムラサキウニ・アカウニ
・マナマコ

ワカメ・ヒジキ・カジメ・アマノリ類・カヤモノリ・マクサ類などの海藻

※警察官・海上保安庁等が巡回していますので絶対に採集しないでください。

4 - 2. 危険な生物

危険な動物に注意してください。万一、受傷した場合は、速やかに病院で医師の診察を受けてください。

1) ヒョウモンダコ …[図 1]

フグ毒をもつので、噛まれると危険。

2) アカエイ …[図 2]

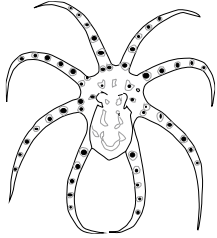
砂に埋もれているものを踏みつけると、尾部の毒棘に刺される。深い傷を受けやすく、毒も強いので危険。

3) ゴンズイ …[図 3]

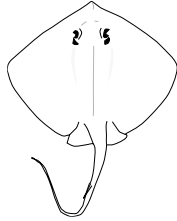
ナマズの仲間、背びれと胸びれに強い毒棘があり刺されると激痛が長時間続く。

4)ハオコゼ …[図 4]

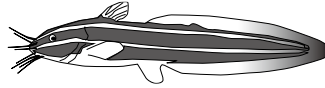
赤い小形魚で、背びれ・腹びれ・尻びれに毒棘が並ぶ。



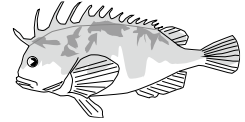
[図 1]ヒョウモンダコ



[図 2]アカエイ



[図 3]ゴンズイ



[図 4]ハオコゼ

5)この他、マダコも咬毒をもち、カサゴ、オコゼ類も毒棘をもつものがあるので、タコと魚類は全般に用心すること。

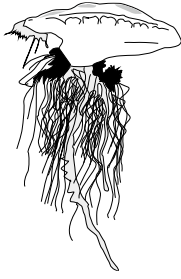
6)クラゲ類でも、カツオノエボシ[図 5]、アンドンクラゲ、アカクラゲなど毒の強いものが磯に吹き寄せられていることがあるので、素手では触らないこと。

7)ウニ類では、ガンガゼ[図 6]、ラップウニ[図 7]などは毒棘をもつ。特にガンガゼの長い棘は深く刺さりやすく、折れやすいため抜けなくなる。ムラサキウニやタワシウニは磯の表面にも生息していて、勢いよく踏みつけると長靴や運動靴でも棘が靴底や側面を突き抜けて怪我をするので、歩く場所にウニがないことを確認して足を踏み出すこと。バフンウニは採集する時に、細い棘が指に刺さることがある。

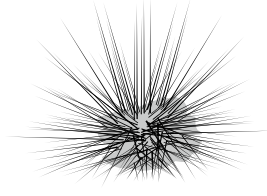
8)カヤ類（シロガヤ[図 8]、クロガヤなど）に触れると、刺胞により痛みがゆるくなる。

9)ゴカイやイソメ類の口には、強力な顎歯があり、それに噛まれることがある。特にオニイソメは巨大なため、噛まれると激痛を伴うので注意を要する。また、チロリは吻を出したときに刺すことがあるので注意する。ウミケムシには、剛毛があり、触れると激しい疼痛を覚え、皮膚炎をおこす。

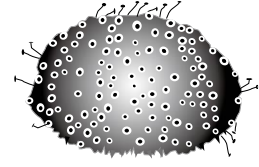
[図 9]



【図 5】 カツオノエボシ



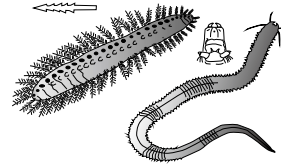
【図 6】 ガンガゼ



【図 7】 ラッパウニ



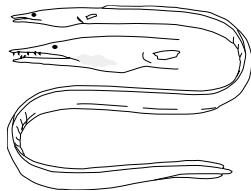
【図 8】 シロガヤ



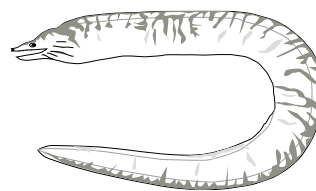
【図 9】 ゴカイ

10)毒はないが爪や歯が鋭く危険なものには、ウミヘビ類（ダイナンウミヘビ【図 10】などの魚類）、ウツボ【図 11】、ワタリガニ類（イシガニ【図 12】、ガザミ、ベニツケガニなど）、シャコ類【図 13】、マガキガイ【図 14】などがある。

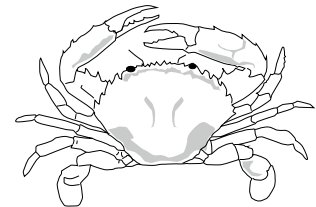
11)また、食べると危険なものとしては、フグ類をはじめ、オウギガニ類（特にスベスベマンジュウガニ【図 15】）、モミジガイ類（特にトゲモミジ【図 16】）などがある。



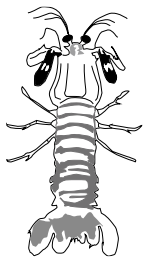
【図 10】 ダイナンウミヘビ



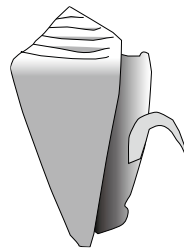
【図 11】 ウツボ



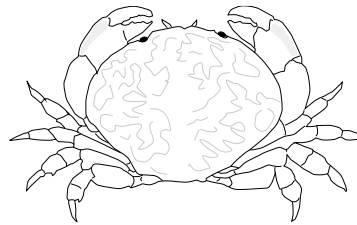
【図 12】 イシガニ



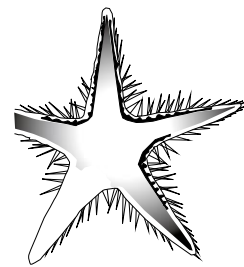
【図 13】
モンハナシャコ



【図 14】
マガキガイ



【図 15】
スベスベマンジュウガニ



【図 16】
トゲモミジ

12) 石灰海綿、トゲトサカの仲間は体に骨片があり、触った後に目をこすると失明の恐れがある。

4 - 3. 海岸等の漂着物

・海岸等の漂着物には、危険物もありますので注意をしてください。詳しく知りたい方は以下の URL を参照してください。

(国土交通省 HP 内 海岸漂着危険物ハンドブック)

<http://www.mlit.go.jp/common/000043930.pdf>

★緊急連絡先★

- ・臨海実験所事務室：046-881-4105
- ・ 採集室：046-881-4107
- ・東京大学理学部地区防災センター：03-5841-8299
- ・三浦市立病院：046-882-2111